

一般枠

【岡山県協議会】

適切な福祉用具選定をするための福祉用具検索ロボット

委員長：梶原伸二

プロジェクトコーディネーター ニーズ：山田太一

シーズ：坊岡正之

1) 協議会の概要

協議会の特性（得意分野や検討フィールドなどの特徴）

- 経験豊富な介護支援専門員や訪問看護ステーション、老人保健施設の現場で業務している作業療法士がニーズの委員として参加するため現場の課題や希望などの情報が入りやすく、シーズ委員としては福祉用具の業者や大学の情報処理の専門家に参加いただき、福祉用具の選定においてそれぞれの立場からの意見を入れながら情報処理の方法も合わせて検討ができる

協議会の目標

- ☑ 介護ロボットなどに関して開発すべき具体的機能や機器・システムを提案する

協議会のメンバー構成（職種・人数）

ニーズ委員 作業療法士 3名 介護支援専門員 2名	シーズ委員 義肢製作所 1名 大学教員 1名
その他の委員（自治体など） 岡山市保健福祉局保健福祉部医療政策推進課 2名	

2) ニーズの明確化：調査・結果考察

ニーズ調査の実施概要（目的、方法、対象、人数）

アンケート・ヒアリング調査

目的：福祉用具の選定方法や選定時に困っていることなどを抽出する

方法：アンケート調査

対象：①介護支援専門員 ②リハビリテーション専門職

人数：①60名 ②27名

ニーズ調査のまとめ（調査結果・考察）

介護支援専門員を対象としたアンケート調査

- ・福祉用具を選ぶ根拠としては、身体状況をみていることが多い
- ・業者を選定する際、納品・緊急時の対応や業者の能力に依存していることが多い
- ・福祉用具の選定において、介護支援専門員としての経験値にはあまり差がなく、業者やリハビリテーション専門職へ相談して決定していることが多かった
- ・福祉用具の選定において困っていないという方が意外と多かった

リハビリテーション専門職を対象としたアンケート調査

- ・リハビリテーション専門職は患者状態をみれるが、福祉用具についての知識が少ない
- ・福祉用具全般についての回答ではなく、トイレ動作などある動作に限定した回答もあった

2) ニーズの明確化：課題分析・解決のイメージ

解決すべき課題

- 介護支援専門員やリハビリテーション専門職などが福祉用具を選定する際に、経験年数、知識にかかわらず、利用者に適した福祉用具の選定が可能となる

課題解決の対象者

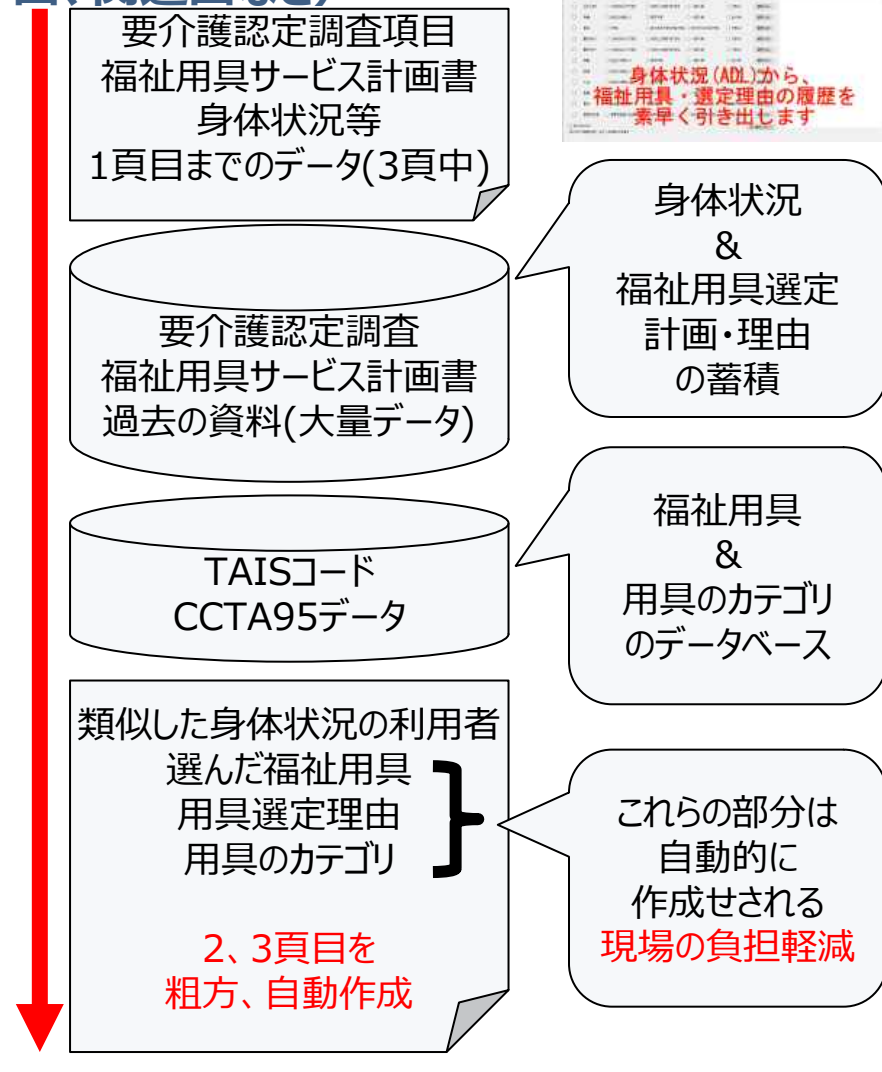
- 利用者
- 介護支援専門員、リハビリテーション専門職など

解決した時のあるべき姿・到達目標（わかりやすく具体的に）

- 利用者に適した福祉用具が選定されることによって生活の質が向上する
- 介護支援専門員やセラピストなどが経験年数や知識に関係なく、誰でもある一定基準の福祉用具が選定できることにより、業務の時間的・精神的負担が軽減される

3) 課題解決のための方法 : 課題解決のための機器（新規ロボット等）の概念

ロボット等の概念図（ポンチ絵、解決のフロー図、関連図など）



ロボット等の概要

■ 福祉用具サービス計画書は、1)身体状況等からなる基本情報、2)福祉用具の選定提案、及び理由3)利用計画と理由3ページからなる。

■ 1)から2)3)を粗方**自動**的に作る。
1)の基本情報の身体状況の項目を入力すると、類似した身体状況をもつ利用者のために選ばれた福祉用具・その選定理由等を**自動**的に洗い出す。福祉用具の大・中・小分類及びそれらの解説も**自動**的に付与する。

利用場面

身体機能や生活環境の変化において福祉用具の選定が必要な場面

期待される導入効果

経験年数、知識に関わらず、利用者に適した福祉用具の選定が可能となる。

3) 課題解決のための方法：課題解決のための機器（新規ロボットなど）の具体例

項目	概要
必要な 機能・技術	<ul style="list-style-type: none"> ■ ごく一般的なパーソナルコンピュータ ■ 大量の「要介護認定調査項目」や「福祉用具サービス計画書」データ。電子化されたもの ■ テクノイド協会の福祉用具検索システムからseleniumでスクレイピングされたTAISコードとCCTA95の関連性についてのデータ。※スクレイピングについては許可を得ている
新規ロボットなど 導入による 課題解決の 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福祉用具検索ロボットを作成し、現場の介護支援専門員やリハビリテーション専門職などに実際に使用してもらい、アンケート調査を行う ■ 利用者の福祉用具の適合状況や生活状況の確認する
既存/類似機器 との 相違点・優位性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者の身体機能や精神機能、生活環境などから、より適した福祉用具が選択されることにより、生活の質の維持・向上が図れる ■ 福祉用具サービス計画書に関するソフトウェア・サービスは複数存在するが項目入力の簡素化やデータの管理、用具の管理が中心である ■ 当福祉用具検索ロボットは、過去の大量データを利用、類似ケースを洗い出す。福祉用具の選定、選定理由の候補を自動的に洗い出すことが主要機能である ■ さらに、選定される用具に関する分類情報や解説を自動付与し、福祉用具選定を補助するものである